

熊谷・泉田・山田論文に対するコメント

東京学芸大学 鈴木亘

総括的なコメント

○これまで医療行動の価格弾力性の計測については、時系列分析をした研究例は存在せず、新規性がある。また、自己負担改正の効果を長期で見ることができるという時系列分析の特徴も、価値のある問題意識である。

○時系列分析の手法面においても、標準的な手法を丁寧に用いており、方法論的には適切な分析がなされている。

○しかしながら、むしろ変数選択面（スペック）の点で、問題があると思われる。

コメント

○グレンジャーコーサリティーの結果は、吉田=伊藤、Yoshida=Takagi が提示した家族効果（被保険者の改革が家族の予算制約を通じて被扶養者に影響する）を示唆しており、興味深い。

○時系列の分析は、季刊社会保障研究の船橋論文をはじめとして、共和分などを用いた分析が存在する。今回の分析では、人口要素や他の要素のないモデルとなっているが、あるいはこれらの先行研究を学ぶ可能性もあるのかもしれない。